


# 活動成果報告書

令和3年度（第25回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 長期取組 災害時自殺対策継続支援事業「うつスクリーニング」	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 久慈市 生活福祉部 保健推進課 代表者：二橋 弥生	
勤務先：久慈市役所 所 属：生活福祉部 保健推進課 所在地：〒028-0014 岩手県久慈市旭町8-100-1 TEL：0194-61-3316 FAX：0194-52-3197	

## ◇活動方針

### (1) 背景

久慈市では、平成28年の自殺対策基本法改正により市町村に自殺対策計画の策定が義務付けられたことを受け、平成31年3月に「いのち支える久慈市自殺対策計画」を策定したところである。

当市は全国的にも自殺死亡率の高い地域であり、平成17年の自殺死亡率は全国24.2、岩手県33.9に対して久慈市は56.2であったが、令和元年には26.8まで減少し、本計画の実行により、令和5年の自殺死亡率を19.2まで減少させることを目標に掲げている。

【参考：いのち支える久慈市自殺対策計画】



### (2) 現状

久慈市の自殺の現状は、多発地域に発生がみられることと中高年世代の自殺死亡率が高く依然として深刻な健康課題である。また、平成23年の東日本大震災、平成28年の台風10号及び令和元年の台風19号による被害を受け、生活の再建で心身の負担が増えていることから支援の必要がある。

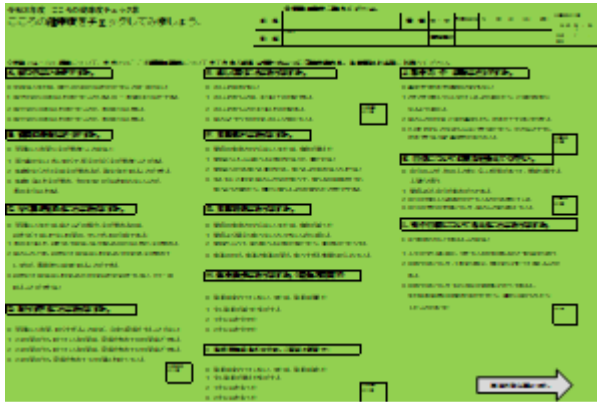
# 活動成果報告書

## (3) 目的

取り組みを進めている自殺対策プログラム（久慈モデル）では、市民全体（一次予防）、ハイリスク者（二次予防）、自死遺族（三次予防）へのアプローチを基本施策としているが、「うつスクリーニング」は、この全てのアプローチを網羅するものである。具体的には、検診会場での待合時間を利用し、パネル展示等による普及啓発を行う一次予防、スクリーニングによるハイリスク者への二次予防、併せて受診者には自死遺族もおり、その苦しみや悲しみといったサインをキャッチし支援する三次予防を目的に実施している。

## ◇活動内容

- (1) 毎年、災害状況等を踏まえ、「うつスクリーニング」の実施地区と年齢を設定する。  
胃がん検診と合わせることで中高年世代へのアプローチができる。
- (2) 胃がん検診問診票に併せて「こころの健康度チェック票」（別紙）を同封する。  
こころの健康度チェック票を自宅等で記入し検診当日に持参してもらう。



【参考：こころの健康度チェック票の表面】

★被災地支援等について岩手医科大学のご指導・ご協力を得ながら事業を進めています。

※令和2年度より、新型コロナウイルス感染症による、こころとからだへの影響もスクリーニングできるよう、調査票の様式を変更。

- (3) 検診当日、「こころの健康度チェック票」を受け取り、問診にてパンフレットと啓発ティッシュを渡す。相談希望の方、緊急対応レベルの方を判別し、問診時に丁寧に声をかける。必要時、相談日時、連絡方法を確認する。※検診会場では、パネル展示、各種リーフレットを配置し、こころの健康づくり、自殺対策についての普及啓発を行う。



【うつスクリーニング問診の様子】

←↓新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、うつスクリーニングを実施。



# 活動成果報告書

↓胃がん検診の待ち時間を活用し、こころとからだの健康づくりについて普及啓発を実施。

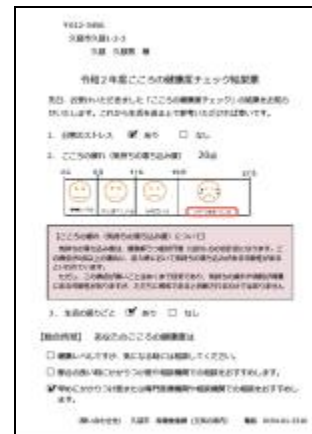


【胃がん検診会場での普及啓発の様子】

(4) 「こころの健康度チェック票」結果について、1か月以内を目途に各自へ郵送。

受診勧奨、関係機関の情報提供を行う。また、自殺ハイリスク者へは、結果通知前に個別相談や家庭訪問等により支援を行う。

結果が分かりやすいように、視覚的な工夫をしています。→



【参考：結果通知書】

## ◇活動成果

令和2年度実績は、うつスクリーニング実施者が221人であり、緊急の受診相談を勧めた方が12人(5.4%)、早めの受診相談を勧めた方が24人(10.9%)、都合のよいときの受診相談を勧めた方が102人(46.2%)、健康レベルの方が83人(37.6%)となった。この結果を他の各事業へ反映させている。

令和3年度実績は、うつスクリーニング実施者が122人であり、現在集計中である。

## ◇今後の計画

震災や台風等による災害後も継続した「うつスクリーニング」を行うことで、長期的な支援につながっていると思われる。また、これまでの災害に加え、新型コロナウイルス感染症による生活の変化への不安等により、今後も継続した自殺対策に取り組む必要があると考える。